



昨日  
Hさん・Mさんの家は市街地を走る鉄道の線路際に建っている。目の前を通る電車からの視線をコントロールするためにデザインされた木製のフェンスと、黒いガルバリウム鋼板外壁の組み合わせがモダンで若々しい。Hさん・Mさんの家は1階に

## 昨日

今の建築家ブームによつて、家を建てる人の意識が変わってきた。ハウスメー

ーカーや工務店に任せることではなく、自分の要望やライフスタイルを間取りや納まりに反映させる。そんな家づくりの傾向を見て一部の工務店は、「ここが腕の見せどころ」と大いに歓迎している。取材にうかがつたHさん・Mさんの家を設計、施工した宝建設もそんな工務店のひとつである。



1階、親世帯のテラスはお母さまのお気に入りの場所。丹精した鉢植えに囲まれて本を読みながらくつろぎの時間を過ごす。「ここでお茶を飲めるようにベンチを置きたいと思ってます」とお母さま。目の前は線路なのだが、フェンスのおかげで電車からの視線も気にならない

# 12 宝建設 神奈川・川崎市

## 線路際の騒音を感じさせない静けさ。 明るい階段ホールは家族のシンボル的空間

Hさん・Mさんの家 神奈川・川崎市

本体工事費・3600万円

3.3m単価・61.8万円

床面積・192.14m<sup>2</sup>

家族構成・夫62歳 妻59歳(Hさん)

夫37歳 妻32歳 長男7歳 二男2歳(Mさん)



南からの採光以外に階段ホール上のトップライトからも光が差し込み、明るくモダンな2階子世帯のリビングダイニング。「ものを外に出したくなかったので収納を増やしてもらいました」と妻。リビングの収納だけでなくキッチンの上部だけではなくキッチンの上部もロフト状の収納庫だ

親世帯（Hさん）、2階に娘夫婦（Mさん）が暮らす2世帯住宅。子世帯は子供が小学校に通い出すのを機に、両親との同居を決意、昨年の5月に計画が始まり、竣工は今年の3月。まだバリバリの新築だ。内部も外観の印象を裏切らないクリーンでモダンな雰囲気。玄関の扉を開けるとトップライトからの光が差し込む吹き抜けの空間と階段が印象的だ。玄関とホールは共用だが、キッチンや風呂などの設備は別々。プライバシーを保つつつ、お互いの気配を感じるちょうどいい距離感。

「2階はとても明るく、1階は落ちていた雰囲気。電車の音も聞こえないし、要望はすべてかなえてもらいました」とお母さま。建主の要望をプランに反映させ、しかも空間として美しい。力のある工務店の仕事とはこういうものなのだ。



(右)玄関から階段ホールを見上げる (左)2階からの階段の見下ろし。階段上のトップライトがホールをおだやかな光で包む。壁仕上げはルナファーザーに塗装を施したもの。1階床は白木の美しいアジアンサンタマリア

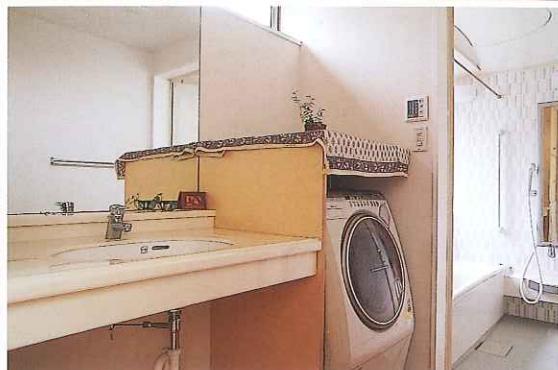
リビングを照らす照明は大きなペンダントではなく、天井の鉄骨梁につけられたスポットライト。リビングの奥にはロフトつきの子供室が見える。子供は男の子が2人。現在はひとつ部屋だが将来は中心に間仕切りを入れて、簡単に個室がつくれるよう配慮されている



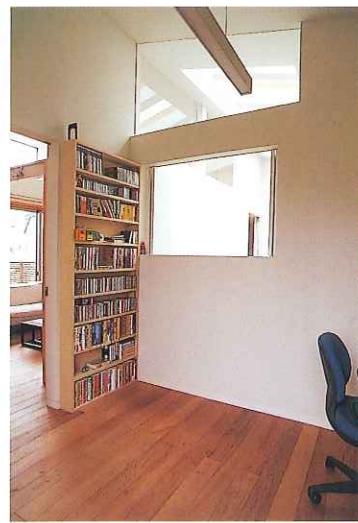
画面の大開口と効果的な  
ハイサイドライトによつて  
どの部屋も明るい2階！

階段を挟んで反対側に位置する寝室。就寝のためだけと割りきって、北側のハイサイドライトだけと開口部は小さい。衣類が収納されるクロゼットは右奥に見える入り口の奥。収納容量は非常に大きく、何でもここに入る

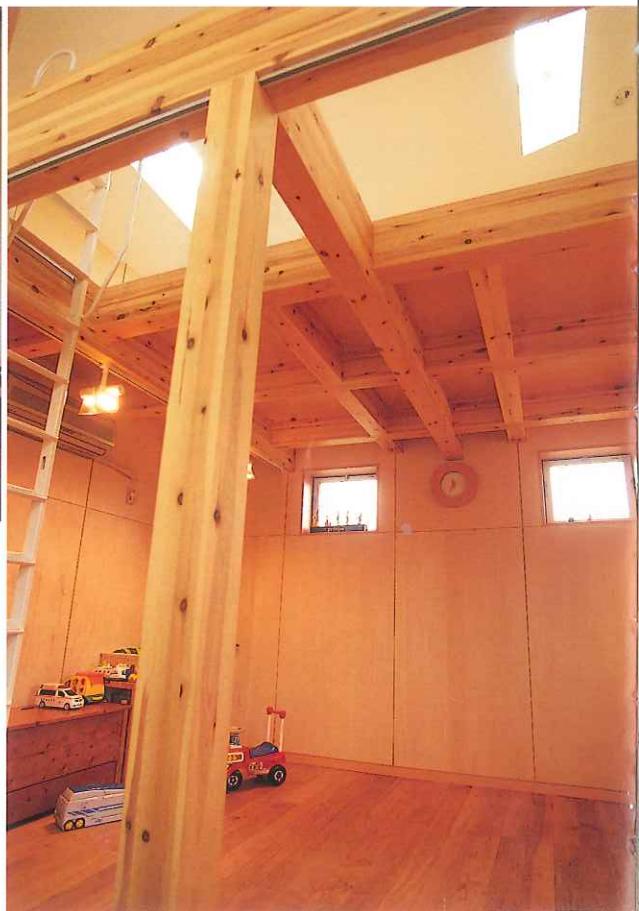




(右上・上)2階キッチンはオープンで明るい雰囲気。キッチンの床は一段低くなっていて、カウンターに座った家族と目線が合うようになっている。宝建設からの提案が生かされた部分だ。妻はここから子供たちの様子を一望でき、家庭の司令塔ともいえそうなキッチンである(右下)洗面と風呂。水回りの位置はすべて1階と共通で、余分なコストを抑えている



(上)2階リビングの奥にはMさんの書斎スペース。1階玄関ホールの上で一部をガラスの床にする計画もあったのだとか(右)子供室はまだ収納などがない、スケルトンの状態。子供の成長に合わせて間仕切りや収納、ロフトなどが形になっていくのだろう。家族の成長とともに変化の余地がある間取りだ





1階は親世帯が暮らす。南面にとられた大きな開口部からは十分な光が差し込む。二重サッシと外断熱による十分な壁厚、それに杭を打って補強した強固な基礎のために目の前を電車が通っても静肅性が確保されている。写真の左手奥はHさんの書斎である

親世帯が暮らす1階は  
十分な明るさを確保しながらも  
しつとり落ち着いた雰囲気



(右)玄関のタタキは和室の前まで延長され、ちょっとした土間空間になっている。近所の人があつねてきたときには障子を開けて腰掛けてもらい、ここで応対することも多いのだと。(上)琉球畳が敷き詰められた和室は、なげしや押し入れなど和室ならではのしつらえをあえてなくし、モダンだが落ち着きのある空間に仕上げた。シナベニヤの目透かし張りの壁もシンプルだ



## 工務店からひとこと

Hさん、Mさんには私たちの施工例をご覧になって、建築家と同じプロセスを経て家づくりをしていることを確認して、契約していただきました。工務店というと施工側が強いように思われがちですが、うちはむしろ設計側に立つて凝った納まりを考え、それを施工することに喜びを感じてしまうようなどころがあります。H邸を例に挙げれば、1階の和室は和室でありますながらモダンな空間とするために壁仕上げをシナベニヤの目透かし張りにしてあります。石膏

ボード十クロスなら安価で施工も簡単なのですが、モダンな美しさを優先させました。ほかにも扉はフロアヒンジにしたため、ドア枠がありません。美しい空間のためにあえて難しい納まりにも挑戦する、そんな気概をもって設計、施工にあたっているのです。

Hさん、Mさんだけでなく、最近はわれわれの姿勢を評価してくれるお客様が増えていきます。今後もそうしたお客様さんに満足していただけるよう設計力を研鑽していくことがあります。



地面から立ち上がるイベ材製フェンスの縦ラインと2階ペランダ用フェンスの横のラインによって全体としてリズムのある外観。線路際に位置するので、この意匠は電車からの視線を室内に導かない効果を上げている



社名／宝建設  
代表者／佐藤健治  
住所／〒216-0033

川崎市宮前区宮崎150  
☎044-877-3861  
<http://www.takara-kensetsu.com>

年間建築棟数／新築6棟  
社員数／8名  
平均坪単価／70万円  
主な工法／木造軸組工法  
建築地域／東京・神奈川  
設立／1970年  
定休日／日曜日



(上)1階リビング奥のお父さまの書斎。リビングと隔てるのは積層合板で造り付けられた収納(右)1階の寝室の奥にはクロゼットが位置する。これまでの暮らしを支えてきた箪笥はここに収納されている



## D A T A

敷地面積／174.14m<sup>2</sup>(52.77坪)  
床面積／192.14m<sup>2</sup>(58.22坪)  
1階／95.65m<sup>2</sup>(28.98坪)  
2階／96.49m<sup>2</sup>(29.24坪)  
用途地域／第1種住居地域  
建ぺい率／60%  
容積率／160%  
構造／木造軸組工法  
本体工事費／36,000,000  
設計／宝建設  
竣工／2006年3月

0 90 180 270

